

ふきのとう 文庫だより

昭和48年1月13日第三種郵便物承認
 HSK通巻番号648号
 発行 令和8年3月10日
 毎月10日発行 定価100円
 (維持会費を含む)
 編集 〒060-0006
 札幌市中央区北6条西12丁目8番3
 公益財団法人ふきのとう文庫
 電話(011)222-4839
 FAX(011)222-4800
 発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
 細川久美子

読書推進と国語力

一九八〇年に消費生活協同組合市民生協の理事長をしていた義父のお世話でその頃本部のあった市民生協桑園店(今は焼失してありませんが)の二階の組織委員室をお借りして公文の教室を開設しました。その後教室は転々となりましたが今の桑園教室(北六西十五)で無事に退職することができました。四十三年という永きにわたり地域の方々にお世話になり、お子さんたちと触れ合い、共に学び貴重な体験をしました。学校教育とは違い教室には黒板はありません。あくまで家庭教育の立場で、ご家庭での学習のサポートをするものでした。一斉授業ではなく学年にとらわれず個人別能力別の学習法でした。お子さんの能力を最大限に伸ばす、やる気があればどんどん伸びる、頑張るお子さんの目は輝きやりがいを感じました。その充実した体験は私にとって生涯かけがえのない宝となりました。学年にとらわれないので生徒は二歳から高校生、社会人まで多彩で、入会の際は幼児、卒業のときは高校生という生徒も珍しくありませんでした。十年以上のお付き合い、今も続いているかたもいます。

読むこと、書くこと、計算の三つの軸を中心にこの頃は文字の書けない子もいるとかさかさまですが、読んで、書いての連続、自分の手を動かし学習するものでした。(居眠りはできません)特に読むことの、読書指導には力をいれました。すべての学習の基礎は国語、言葉を大切にし本を読んで生きた知識を得てほしいと願い、幼児期から読み聞かせをして、自力読みができるように、本好きな子が育つよう、本が近くにある環境をつくりました。学習を終えて、お迎えのご家族がくるまで、待合コーナーで大好きな本が読めることは、本が好きなお子さんにとっては幸せな時間だったと聞

公益財団法人ふきのとう文庫 理事 高倉 実枝子

いています。おまけに本が好きなお子さんは集中力が抜群で、しだいに物事の判断力も加わり、知識がふかまりました。

昨年、読書週間の折に「読書離れ」と言われて久しいが、本当にそうなのだろうか?という新聞記事を目にしました。文化庁の世論調査によると減っている理由に「スマホなどで時間がとられる」が最も多いという解答。スマホの普及率は九十七%に達している現在と過去二〇一〇年〜二〇一八年までの不読率はほとんど変わっていない。一概に「読書離れ」とは言えないのではないかというものでした。また小学生の読書量(冊数)は最多で実際には大人の読書量は小・中学生よりはるかに少ない。少なくともこのデータから子ども読書離れは進んでいないと言えそうです。読書冊数は学校で毎朝、本を読む時間を設ける「朝読」の普及(二〇二三年で八十三%の小学校で実施)があるようです。

最近では《人工知能》生成AIの時代を迎え、業務の(次ページに続く)

プロフィール



一九四二年 札幌生まれ札幌育ち
 道立札幌西高校を経て北海道教育
 大学札幌分校卒
 私立香蘭女子高校(現在の山の手高
 校)に勤務(国語・書道)

結婚後一九八〇年公文式桑園教室開設四十三年間勤務
 二〇二〇年よりふきのとう文庫 理事

効率化やクリエイティブ活動の支援に劇的な変化をもたらしています。様々な電子機器に振り回されることなく道具として上手に使いこなす思考力が不可欠で自分を見失わない能力を培っていかねければなりません。読むこと・書くことで培われる国語力の大切さを痛感する次第です。

幸い、ふきのとう文庫には、類のない布の絵本そして、拡大写本（弱視の子ども達のために文字を大きくした本）があります。製作されたのはどちらもボランティアの方々です。布の絵本・拡大写本共に二階の工房で作られています。一針一針、一字一字、丁寧に仕上げたオリジナルの作品です。爺いじ、ばあば、パパ、ママと一緒に手に取り紙の絵本にはない優しいぬくもりを感じて想像力を高めていただきたいと思います。小さなお子さんの絵本デビューは布の絵本から!! お勧めします。併設された、ふきのとう子どもクラブ【第三の居場所】これらでいる皆さん、自分の好きな時に、自分が読みたい本を選べることを楽しんで、読書にも親しみましょう。



ふきのとう子ども図書館 活動のご紹介

業務執行理事 杉山 一夫

玄関を入つてくると、正面にカウンターがあり、左に目をやれば書架がずらりと並んでいます。この風景は二〇一四年二月二十三日、桑園で開館する以前から、多くのボランティアの仲間のたゆまぬ努力のおかげで進展されてきました。

例えば、市立大通高校の近くにあった市立図書館が学芸大学（現教育大学）の跡地に移転してからは桑園地区には図書館らしきものはなく、まして子ども図書館がやってくるなど近隣の人にとって降ってわいたような話だったのではないでしょうか。



そんな中、募集記事を見て集まった多くのボランティアは子どもとふれあい、おかあさんたちとコミュニケーションをとってきました。十二年の間には人も入れ替わりしましたが、小林静江さんの遺志をつなぐため引き続き、日々努力を重ねています。さてここで曜日ごとの主な様子を紹介してみます。



日曜日 なんといつでも来館者が多く、特に男性が多いです。それとほとんどの日曜日に何らかの催しがあり、それを毎回楽しみに来られる親子づれが多いのが特長です。月曜日 うって変わって平日の落ち着

いた雰囲気の中、子どもたちへのプレゼントに折り紙を作り、カウンターに置いておきます。親子連れがくれば、読み聞かせをします。

火曜日 蔵書の整理・点検・補修、返却の催促、購入と寄贈本の受入れ、集計業務、季節の行事コーナーの管理など専門的な仕事をしています。

水曜日 ここも親子連れがくれば、読み聞かせを行っています。玄関の壁の飾り付けを三か月ごとに変えています。

各曜日まだまだほかにも仕事はありますが、どれもみなさんとても熱心に取り組んでくださっています。



「くんちゃんのおはなし会」

「豊かな読書への種まき」

ふきのとう文庫おはなしの会 葛西 季子

「今日はどんな子どもたちと会えるかな」そんなことを考えながらホールに入ると、お部屋は暖かく、小さな机にはチェックのクロスが掛けられています。

持参した絵本をさっそく広げます。メインのおはなしは昔話、小学生が来てくれたらこの科学絵本が創作絵本、赤ちゃんや幼い子のためのわらべうた絵本など、子どもたちを思いながら、机に並べます。おはなし会のあとに絵本を手にとってもらうため、窓辺にも、季節の飾り物と共に並べます。

少し恥ずかしそうに幼い子がお母さんとやってきました。準備した布おもちゃや布絵本で遊ぶうちに、子どもの表情も和らぎます。おはなしの会の齋藤さんの声掛けで、みんな円くなり、お手玉積みが始まりました。幼い子も大人も一緒に遊ぶことができます。「上手に積めたね」声を掛けると、子どもたちから笑顔がこぼれ、目に見えない子ども同士のつながりも生まれています。和やかな雰囲気の中で、そろそろ今日のおはなし会の始まりです。

プログラムの始めは、季節のわらべうたです。わらべうたは意識して取り入れており、特に赤ちゃんや幼い子にはおはなしの一つとして取り組んでいます。「とどけっこう」や「ひとやまこえて」など、わらべうたの調べ、言葉のリズムを、赤ちゃんは全身で感じている様子です。大人の方にも覚えていただいで、おうちでもわらべうたのある穏

やかな時間を過ごしていただければ…と願っています。

その日の子どもたちの年齢、成長を感じながら、用意してきたプログラムの絵本の中から、メインのおはなしを選びます。子どもの生活に根差した本、子どもの成長を支えてくれる本など、テーマを考えながら組み合わせます。時には、絵本の内容が豊かになるように、松ぼっくり、落ち葉など自然の中にある物もプログラムに取り入れています。

おはなしの世界を楽しんだ最後は、「さよならあんころもちまたきなこ」と、一人ひとりといさつ。てのひらのぬくもりに、心の中にも温かいものが満ちてゆきます。

おはなしに吸い込まれるように絵本に見入っている子どもの瞳、わらべうたのリズムに身体を揺する幼い子。幼い子は、おはなしの場に身を置いて、いろいろなことを感じながら、成長していくことでしょう。思うのは、子どもたちの健やかな成長、願うのは本のある穏やかな親子の時間です。

西区平和に図書館があった頃からおはなし会がされている足立さんとご縁で、語りを学び合う仲間が集まり、今日に至っています。当時から、優しさあふれるおはなし会の雰囲気をおはなしの会を大切に、仲間と力を合わせ、本の楽しさを子どもたちに伝え、豊かな読書へつながるよう、種まきが続けていきたいと思っています。



本紹介

「くんちゃんのはたけしごと」

作 ドロシー・マリノ (ペンギン社)
おとうさんの畑仕事を手伝うことになったくんちゃん。はじめは失敗ばかり。そこでくんちゃんは畑の端に座り、じっとおとうさんのすることを観察します。やがてくんちゃんは…

くんちゃんを見守り導くおとうさんが素敵です。
(足立芳江)

「くんちゃんはおおいそがし」

くんちゃんは朝から両親に何をしたらいいか尋ねてばかり。忙しいおかあさんは「外へ行つて自分で見つけなさい」と言います。家のまわりを歩いて木切れを見つけ小川に浮かべてみます。きれいな小石も見つけて拾ううちに楽しい遊びが浮かんできて、くんちゃんはもう大忙し。子どもは遊びの天才です。四季折々の生活の中で紡がれた物語へこぐまのくんちゃんシリーズは「くんちゃんのはじめてのがっこう」など全部で七冊あります。
(足立芳江)

「とべ！ちいさいプロペラき」

作 小風 さち (福音館書店)
初飛行を待つちいさいプロペラ機は、格納庫に入ってきた大きなジェット機を見て圧倒されてしまいます。不安でいっぱいプロペラ機でしたが、ジェット機に励まされ勇気を出して大空に飛び立っていきます。初めてのことへの不安、一歩踏み出す勇気は子どもたちも一緒。プロペラ機の姿に自分自身を重ね聞いています。

小風さちさんの作品は「わにわにのおふろ」などのわにわにシリーズのほか、「ぶーぶー」や「こぶたのピクルス」など多数あります。お気に入りの一冊を見つけてください。
(齋藤貴子)



令和八年度の事業及び収支計画について

「ふきのとう文庫」への企業・団体支援拡大 に取り組む実務・実動部隊づくりこそ急務

代表理事 高倉 嗣昌

当文庫が札幌市西区から中央区に移転してから丁度十二年、その間活動の内容は部分的に変化しつつも、多くのボランティアの方々のためまぬお力や、個人的賛助、ご寄附により、地道に継続されてまいりました。

最近そこに「ふきのとうこどもクラブ」が加わったことなどにより、スムーズな運営を図るべく「事務局会議」や「自立プロジェクト会議」の新設で、活動の方針や内容は決められる体制になりました。しかし、両会議のメンバーは社会的に他の重要な任務に就いている人が大部分で、それらを具体的に実行して行くことまでは手が回らない状態に置かれがちです。もともと全体的に人手が足りず、少数の人に多くの負荷がかかる体質がありそれが顕著になって来た面は否めません。

加えて「ふきのとうこどもクラブ」への助成が終了する来年度以降、経済的に切迫した課題を克服して行くのに最有力な手段は、今のところ企業・団体からの賛助や寄附の大幅な増加を図る以外にありません。これまで手薄だった企業・団体に対して支援を広くお願いする活動には、情報収集やお願い先のリスト作りも含めた実務・実行部隊の存在が不可欠なことだと思えます。

助成終了による減収を埋めるための必要額は数百万円であり、半端なものではないことは既に文

庫だよりでお知らせ致しました。
このような課題を意識し果敢に取り組んでまいります。

令和八年度事業および収支計画の目録

担当理事提案

■ 事業計画

一. ふきのとう文庫運営に関して

一) 令和七年度は理事会・評議員会改選が行われ新体制での運営となりました。

更に、日本財団助成によって令和七年四月三日「ふきのとうこどもクラブ」新館は多くの地域皆さんの期待と子ども達の希望をのせて開所することができました。

ふきのとうこどもクラブは二〇二三年七月から三年目を迎え運営助成も終了となりまして、二〇二六年度からは自立した運営と収支が必要となることから大きな事業改革が期待される年度になります。

二) 令和八年度運営方針としましては、ふきのとう文庫運営は五事業活動を展開しており、子ども図書館・布の本・拡大写本・子どもイベント・こどもクラブそれぞれの活動の充実と安定を目指します。支える活動はボランティアさんのためまぬ努力の結集であり、持続可能な活動とするための世代引き継ぎの期間に入っておりますが、この活動のすばらしさを伝承し参加いただく仲間づくりプランと活動PRを進めて参ります。

新年度のふきのとう文庫収支計画は、こどもクラブ経営の独自採算を堅持することが持続可能課題であり、第三の居場所コンセプトを担いながら独自の財源対策と運営改革を進め収支整合を目指していきます。

二. こども図書館の運営

一) 「読み聞かせ会」活動を広めます

図書館運営は、現在四十名ほどのボランティアさんで活動しています。

「子ども催事部門」とは別に図書館ボランティアによる読み聞かせ会を行っており、今後でもできるかぎり続けて参ります。

二) 「書架の整理」を進めます

絵本の書架が特にいっぱいとなり、子供の手では書棚より取り出せない時もあり、なおかつバックヤードも手狭で、昨年に続き処分を含めた書架の整理が近々の課題となっており次年度に向けて取り組んでいきます。

三. 布の本の製作

布の本の製作は現在四十五名のボランティア体制で分業製作しておりますが、布の本特性とクオリティの良さから全国の図書館等からオーダーが絶えません。しかし、熟練者の高齢化と技術伝承の難易度も高く、要望に応える生産ができていない実情にあります。そこで、今年度は大型本の製作スキルを向上させ、二十名以上のボランティアスタッフが製作できる仕組みづくりを築いていきます。

四. 拡大写本の製作

令和八年度も、拡大写本活動メンバーのチカ

ラを合わせ、これまでの活動内容の充実と継承を進めて参ります。

一) 拡大写本の製作（絵本・児童書・まんが・その他）

二) 拡大写本の寄贈（視聴支援校 通級教室・ひとみの教室）

三) 拡大写本の貸し出し（個人・団体・展示会など）

五、子ども催事事業

皆様のご協力のもとに令和七年度も多彩な催事活動を実施することができました。

ふきのとう文庫のいずれの催事活動も演者と参加者の距離が近いのが特徴で、子どもとのふれあい、やりとりの楽しい時間が伝わってくるものでした。

ふきのとう文庫ならではの催事が定着し来場者も増えており、令和八年度も祭事企画十九本、おはなし会十一本で計三十本の催事企画を準備しました。

新年度も多くの子ども達とともに楽しむことが出来る催事企画運営を進めて参ります。

六、ふきのとう子どもクラブ

令和八年度子ども第三の居場所事業（子どもクラブ）方針

一 課題

① ことも家庭庁の補助金申請困難（札幌市で「第三の居場所事業」の位置付けがされないため）。

② 札幌市、学校や児童センター等との連携は深まっていない。

③ 利用者数がイベント日を除くと増えていない。

④ 資金調達できず、農園体験等の親子参加

型のイベントが実施できなかった。
二 令和八（二〇二六）年度の方針と目標

① 子ども第三の居場所事業の継続運営（少なくとも五年間の継続）

② 令和九（二〇二七）年度からことも家庭庁の補助金利用ができるように、札幌市と協議・相談

③ 賛助会費・寄付金・その他助成金等による資金調達（ふきのとう文庫全体の取組）

④ 可能な限り経費削減に努め、スタッフ人数（人件費）を最適化する。

⑤ 令和八年六月から新体制スタートを予定し、実費負担（光熱費・食費・保険料相当）を求める方針。

⑥ 令和八年四〜五月頃までに、新たな運営形態や運営体制を利用者へ伝える。

三

① 三月末までの賛助会費等資金調達見込み額を踏まえ、下表Bプラン「日曜日休み、運営体制縮小（通常時のスタッフ人数減）」の方針とする。

※国民の祝日の対応…月・火・水の祝日は十五日間あり、祝日運営の可否について検討する。

※スタッフ人数は、これまでの一日三〜四人体制から、平均二・五人体制（イベント時除く）とする。

② こともクラブの利用料徴収について、水道光熱費＋食費＋保険料の実費負担を求める。

● 利用者アンケートの結果（回収率20%）、二十人中十八人が利用料徴収に賛同（消極的賛同含む）。

↓現状の利用者数が少ない中、さらに利用者減少する可能性あり。

↓クラブの差別化・付加価値化が必要

③ 農園体験等の魅力ある外出イベントの実施は、今年度同様、助成金等によって資金調達可能な場合のみ実施していくか、あるいは、利用者負担（有償）にて実施するものとする。

④ 運営プログラムは、生活支援、学習支援、昔遊び、英語・韓国語会話、季節のイベント、おやつ・手作り軽食の提供等を継続して実施する。（定員二十人）

令和8年度 収支計画

（過年度実績と令和8年度予算）

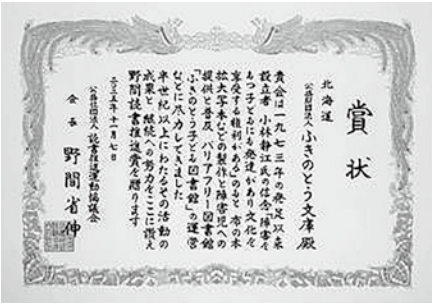
（単位：円）

収入の部	令5年決算	令6年決算	令7年予算	令8年予算案
1. 賛助会員収入	1,878,300	2,044,000	2,500,000	4,000,000
① 個人賛助会員	1,718,300	1,758,000	2,000,000	2,000,000
② 法人賛助会員	160,000	286,000	500,000	2,000,000
2. 寄附金等	4,194,908	3,817,068	3,500,000	4,000,000
① 寄附金	3,894,908	3,417,068	2,500,000	2,000,000
② こくみん共済他	300,000	400,000	1,000,000	1,500,000
③ 読書推進協議会ほか	0	0	0	500,000
3. 助成金	8,365,200	60,014,130	8,940,000	3,800,000
4. 事業収入	1,835,304	1,967,110	2,000,000	2,000,000
5. 雑収入	90	4,623	0	630,000
当期収入合計	16,273,802	67,846,931	16,940,000	14,430,000
支出の部	令5年決算	令6年決算	令7年予算	令8年予算案
1. 管理費	11,679,425	13,776,663	13,510,000	11,460,000
2. 事業費	2,107,489	53,247,052	3,430,000	2,970,000
当期支出合計	13,786,914	67,023,715	16,940,000	14,430,000
当期収支差引額	2,486,888	823,216	0	0

第五十五回「野間読書推進賞」

受賞しました

野間読書推進協議会は一九七一年度より読書推進賞を設定し、地域・職域・その他において長年読書の普及に尽力した団体や個人に贈られる賞です。全国の読書推進協議会などから推薦された十一団体・四個人の中から選ばれます。本年度は団体の部「ふきのとう文庫」、個人の部「岩田美津子」さんが受賞しました。道内からの受賞は八年ぶりです。選考理由としては特色のある私立バリアフリー図書館で、障がい者の有無に関わらず子ども達が立ち寄れる場所となっていること、布の本・拡大写本の製作と地域に役立つ活用が行われていること、創設者・小林静江が草の根文庫から始めたその志をしっかりと引継ぎ活動をしていること等が評価されました。十一月七日の贈呈式には高倉代表理事と高倉理事の二人が出席しました。



賛助費、寄附、寄贈ご芳名・行事一覧

2025年11月以降賛助会費納入一覧

安藤 淑子	梅沢 愛美	小栗 法韶	小野 祐子
櫻井万里子	佐々木 亮	平 照治	谷藤みどり
橋爪 侑子	原田 宏子	平岡佳代子	福島 佳子
福島 敏幸	藤島 亮一	藤田 宮子	星野 康
武藤 素子	村松 晶子	森永美恵子	米森 逞輔
大沼 治美			

法人賛助会費納入一覧

(株) アラゼン 代表取締役・荒井竜一	(株) 熊本建築設計事務所 代表取締役・佐藤 努
(株) 嘉屋商事 代表取締役・佐藤嘉一	岩見沢友の会
コアレックス道栄(株)	三幸包材(株) 代表取締役・井樫博之
新野秀行税理士事務所	中央会計事務所
マルゲンビル	

2025年11月以降寄附一覧

(個人)	青山 千春	青山 誠	我孫子まちこ	飯村 俊幸
	石川真知子	岡田 康照	片山 和恵	金 仁子
	熊野 清子	佐々木美代子	杉田ミツル	高倉 嗣昌
	高倉実枝子	竹田 浩之	釣部加奈子	

(団体)

(株) 太田ファーム・太田昌子	(株) 偕成社	NPO精神障害者を支援する会・片山和恵	PERISSIA	こくみん共済coop北海道推進本部本部長・藤森敏弘	こくみん共済coop北海道・東北統括本部本部長・大出彰良	桜蔭学園 文化祭企画委員会	札幌木鶏クラブ	生活クラブ生活協同組合	税理士法人中央会計事務所・札幌事務所	全障研札幌サークル	読書推進協議会
-----------------	---------	---------------------	----------	---------------------------	------------------------------	---------------	---------	-------------	--------------------	-----------	---------

ふたご座・畠山 珠恵

へアースランド ネスト 川波和芳
北海道民間教育研究団体連絡協議会
まりん・渡部まりん
ラウンジ わ・白戸 文代

2025年11月以降寄贈一覧

11月21日	松村千恵子	児童書	29冊
11月23日	工藤 礼奈	児童書	25冊
12月5日	偕成社	絵本	22冊
12月15日	学研	絵本	1冊
1月6日	安藤 淑子	ボタン多数	1冊
1月7日	童心社	絵本	1冊
1月12日	童心社	絵本	1冊
1月25日	山田 晴葵	絵本	1冊
1月30日	童心社	絵本	2冊

行事一覧

11月9日	うたう会		
11月11日	運営会議		
11月16日	おはなし会		
11月30日	井上美豊子と楽しもう		
12月7日	二胡演奏会		
12月14日	16日 布の本・拡大写本展		
12月21日	おはなし会		
12月22日	武蔵女子短期大学 学生10名・引率3名 見学		
12月25日	1月4日 年末年始休館		
1月5日	開館		
1月18日	トトロおじさんバラエティー		
1月20日	運営会議		
1月25日	おはなし会		
2月3日	理事会		
2月8日	手づくり遊び		
2月10日	札幌市東区主任児童委員研修会	20名	
2月15日	おはなし会		
2月22日	評議員会		

三年間を振り返って

ふきのとうこどもクラブ運営スタッフ

大友かんな

この春、就職に伴いこどもクラブを卒業することになりました。

開所の頃から関わってきた私にとって、ここを離れることはとても寂しく、まだ実感がわきません。

開設当初はマニュアルもなく、何が正解かも分からないまま、毎日が手探りでした。子どもとの関わり方も「これでいいのかな」と悩みながらの連続。それでも一緒に過ごしていく中で、子どもたちの発想の豊かさや柔軟さに驚かされることも何度もありました。

「そんな考え方をするんだ」「そう来るのか」と思わされる瞬間がたくさんあり、私自身が学ばせてもらっていたのだと思います。

遊びの時間もいつも本気でした。私は子どもだからと接し方を変えようというより、できるだけ自然に向き合うことを大切にしてきました。ゲームでは容赦なく勝ちにいき、時には本気で悔しがり、時には大笑いしながら過ごしました。勝つて喜ぶ姿も、負けて拗ねる姿も、どれもその子らしくて大切な時間でした。



気づけば、働いているというより、同じ時間を一緒に楽しませてもらっていた、そんな感覚の方が近いかもしれません。

毎月のイベントや掲示物づくりも、子どもたちが参加できるよう工夫しながら自由に作らせていただきました。何を作るか考え、材料を探し、その場に合せてやり方を変える。そんな柔軟さが許される、とてもあたたかい場所で、季節ごとに変わるクラブの雰囲気は私自身も楽しんでいました。子どもたちが完成したものを嬉しそうに見せてくれる瞬間は、何度経験しても嬉しいものでした。

また、HPやSNSの投稿、毎月のクラブニュースの発行などの事務作業にも少しずつ慣れ、活動を形として残していく役割にもやりがいを感じていました。それだけに、子どもたちと過ごす日常がもうすぐ終わるのだと思うと、やはり寂しい気持ちでいっぱいです。

これからは、日本財団の補助終了に伴い有料化



新しい拡大写本できました。

- | | | |
|-----------------------------|-------------|---|
| もうじきたべられるぼく | はせがわ ゆうじ | 作 |
| 犬にかまれたチイちゃん
動物のおいしゃさんになる | 今西 乃子 | 作 |
| ひばりの矢 | 斉藤 隆介 | 作 |
| 犬たちをおくる日 | 今西 乃子 | 作 |
| クーちゃんときんがみちゃん | 北川 佳奈 | 作 |
| しずくのぼうけん | マリア・テルリコフスカ | 作 |
| やさしいライオン | やなせ たかし | 作 |
| 煙のように消えるねこ | リンダ・ニューベリー | 作 |
| とびきりおいしいおうちごはん | 野村 友里 | 作 |

となり、こどもクラブの形も少しずつ変わっていくのだと思います。それでもここが、子どもたちにとって「第三の居場所」であり、安心して過ごせる場所であり続けてほしいと願っています。保護者の皆さま、地域の方々、そして関わるすべての方の力によって、この場所がこれからも続いていくことを心から願っています。

三年間、本当にありがとうございました。ここで出会った子どもたちのこれからを、ずっと応援しています。

◆ 札幌市東区主任児童委員研修会

二十名来館

二月十日札幌市東区民児協主任児童委員の方々二十名が視察に訪れました。「第三の居場所の意義、地域との関りについて」の研修です。高倉代表理事から「ふきのとう文庫の理念や文庫活動が目指すもの」について一時間ほどの説明に聞き入っていました。その後図書館内、二階作業室を見学して布・拡大ボランティアからの説明を受けていました。拡大写本の作り方を聞いたり、布の本の縫い目の細かな所に驚いていました。

ふきのとう文庫の活動が皆様のお役に立てるよう、ボランティアも頑張っている様子が伝わったことでしょう。



子どものためのもよおし

2026年度下半期

予定表

10月 4日(日) 13時30分～	札幌シンフォニエッタ演奏会
11日(日) 13時30分～	アンサンブル・フラテ演奏会
18日(日) 13時30分～	おはなし会
11月 8日(日) 13時30分～	うたう会
15日(日) 13時30分～	おはなし会
29日(日) 13時30分～	井上美豊子と楽しもう!
12月 6日(日) 13時30分～	手作り遊び
20日(日) 13時30分～	おはなし会
1月 17日(日) 13時30分～	おはなし会
2月 14日(日) 13時30分～	手作り遊び
21日(日) 13時30分～	おはなし会
3月 14日(日) 13時30分～	うたう会
21日(日) 13時30分～	おはなし会
28日(日) 13時30分～	井上美豊子と楽しもう!

♪静かに本を読みましょう♪

ふきのとう子ども図書館
TEL 222-4839 FAX 222-4800

子どものためのもよおし

2026年度上半期

予定表

4月 19日(日) 13時30分～	おはなし会
26日(日) 13時30分～	仁木彩子ピアノ演奏会
5月 5日(火) 13時30分～	こどもの日「お楽しみ会」
10日(日) 13時30分～	うたう会
17日(日) 13時30分～	世界の楽謡展
24日(日) 13時30分～	おはなし会
6月 21日(日) 13時30分～	おはなし会
28日(日) 13時30分～	井上美豊子と楽しもう!
7月 5日(日) 13時30分～	福本ゆめ二胡演奏会
12日(日) 13時30分～	うたう会
19日(日) 13時30分～	おはなし会
26日(日) 13時30分～	トロロおじさんパラエティークショー
8月 2日(日) 13時30分～	ヤチシンコス南米音楽演奏会
16日(日) 13時30分～	おはなし会
23日(日) 13時30分～	井上美豊子と楽しもう!
9月 13日(日) 13時30分～	うたう会
20日(日) 13時30分～	おはなし会
27日(日) 13時30分～	人形劇団ひよっこ

◆別冊で本を読みましょう◆

ふきのとう子ども図書館
TEL 222-4839 FAX 222-4800

あとがき

一三八号では、ふきのとう文庫の活動応援者による寄稿をお願いしました。

皆さん、様々なご経歴のもとに、ふきのとう文庫活動に関わるきっかけで応援活動をしていただいております。これからも多くの皆様のご寄稿をお願いいたします。

さて、間もなく令和八年度がはじまります。事業的には幅が広がりはあるものの財政的には大きなハードルを越える年度になります。ふきのとう文庫活動の応援者を増やし、ふきのとう文庫らしく、子どもたちの笑顔を広める活動を広めていきたいと思います。

横澤 記

編集 公益財団法人ふきのとう文庫 代表理事 高倉 嗣 昌

〒060-0006 札幌市中央区北6条西12丁目8番3
☎ 011-222-4839 FAX 011-222-4800
http://www.fukinotou.org
E-mail:fukinotoubunko@ceres.ocn.ne.jp
令和8年3月10日 発行
毎月10日発行 定価100円(維持会費を含む)

昭和48年1月13日 第三種郵便物承認
HSK通巻648号
発行人 北海道障害者団体定期刊行物協会
細川 久美子

郵便振替 = 02720-3-2300 銀行口座 = 北洋銀行本店営業部普通預金 0035764 公益財団法人ふきのとう文庫

この機関誌は、「北海道共同募金会の配分」により刊行しています。
維持会員・寄付者のみなさん、ありがとうございました。